

六甲カトリック教会 教会報

2024

3

No. 627



希望をもつこと

主任司祭 英 隆一朗, s. j.

今年は4年ぶりのルミナリエ開催ということで、見に行きました。昔に比べてかなりちゃちになった感じがありますが、それでもきれいでした。真っ暗な中で光が輝くのは、ほんとうに美しいです。

この光が神戸の復興を象徴しているようで、温かな気持ちになりました。復興の最初のシンボルは、東遊園地で今も燃え続けている「希望の灯り」でしょう。ルミナリエの最後に、希望の灯りを見るとさらに感動を覚えました。最初の小さな火から始まり、それが、だんだんとルミナリエのような大きな輝く光に発展したように見えるからです。最初のともし火に「希望」という名があるのは勇気づけられます。

私たちに必要なことの1つは、希望をもって歩むことでしょう。特に今年は、能登半島の大震災から始まりました。社会全体を見ても、教会を見ても、高齢化が進み、希望を見いだしにくい状況です。そのような中であって、私たち一人ひとりが希望の灯りになって生きていくことは大きな意義があると思います。

ローマの教会への手紙には、有名な聖句があります。「苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを。希望は私たちが欺くことがない」(ロマ5;3-5)です。普通感覚では、ちょっとした苦難があるだけで、打ちひしがれてしまい、絶望的になってしまいうことが多いでしょう。しかし、イエスを信じる者にとって、苦難があるからこそ、真の希望が生まれます。だから、希望を誇りとすることができるということです(ロマ5;3)。苦難に直面するとき、まず私たちは忍耐します。苦しい中でもじっと耐えながら歩いていきます。そうすると、少しずつその意味や価値が分かってくるようになり、神のメッセージが分かるようになります。少しずつ前向きになれることを、練達という言葉で表現されています。神のメッセージを悟り、神から歩む力をもらうとき、希望が生まれてきます。その希望を支えにさらに前に向かって歩いていきましょう。

教会として希望を感じることは、今度の復活祭に10名ほどの大人が洗礼を受けることになりました。帰天したり、転出する人の方が多いので、教会の信徒数は減少を続けています。それでも、洗礼志願者の存在が希望の灯りのように見えます。

また、3月から渡辺新司祭が赴任されます。叙階したての若い神父さまです。それも何か小さな希望の灯りのように見えます。

私たちの身近にある希望の灯りに気づき、それを大切に育てていきましょう。希望に向かって歩むならば、そこから信仰と愛の実りが現れてくるでしょう。教会の存在そのものがルミナリエのように、闇を照らす大きな光となっていきますように。四旬節の間、私たちの祈りと苦しみをささげ、キリストの復活にあずかる希望のうちに信仰生活を歩いていきましょう。

第6回地区役員会議事録(要約)

日時：2024年2月11日 11:30～13:00

場所：第1・2会議室

出席者：英主任司祭、宗行小教区評議会議長、地区役員

1. 主任司祭挨拶

- ・中村助任司祭、フオン神学生が3月に異動、渡辺助任司祭が3月1日に赴任する。
- ・渡辺助任司祭は若者グループ担当、英主任司祭は三日月会担当を予定している。3月3日（日）に3名の皆様の歓送迎会を行いたい。
- ・洗礼志願式が2月18日、洗礼式が3月30日、3月31日に予定されている。3月31日10時ミサ後、ご復活のお祝いと新受洗者のお祝いを行う。
- ・代父母はできるだけ同地区の方をお願いするようにしている。
- ・信徒同士の家庭訪問（ミサに出席できない方）も現状を確認し、検討する。
- ・聖体奉仕者（おおむね60歳代以下）の新任も検討する。これは神戸ブロックとしての対応となる。

2. 新年会報告(1月7日) 担当：灘北2・阪神

- ・10時ミサ後実施、100人程が参加。サンドイッチ、唐揚げ、お寿司、ケーキ、ビール等提供。ジャンケンゲームを行い、楽しい新年会になった。
- ・飲食費が約11万円、テーブルクロスクリーニング代約2.5万円となった。現状の布製クロスを使用後クリーニングすることを前提として継続使用とする。

3. 教会清掃

1) 備品の補充管理費用負担について

- ・消耗品、清掃用具等の費用負担は施設管理部、消耗品（掃除時に気付いた時）、また掃掃除用具（地区役員会で協議後）に事務に発注依頼する。今回コードレススティック掃除機の1台の発注を決めた。

2) 定期清掃日程（業者）

- ・業者定期清掃を奇数月の第4月曜日から奇数月の第4金曜日に変更する。
- ・土曜日は、灘南地区のフォロー清掃のみとし、東灘北1地区のフォローはしない。

4. 教会行事予定表・連絡網配布について

1) 個人情報の扱いについて（別紙省略）

2) 教会行事予定表・連絡網配布スケジュール(別紙省略)

- ①封筒入れ開始：3/2(土)教会事務が宛名入り封筒を準備
- ②配布日程：3/16(土)、3/17(日)、3/23(土)、3/24(日)

5. イグナチオ喫茶当番

- ・3/3 灘南・神戸西、4/7 灘西・中央、5/5 東灘北1

6. 歓送迎会（3月3日）

- ・中村助任司祭、フオン神学生、渡辺助任司祭の歓送別会を3月3日10時ミサ後に行う。
- ・イグナチオホールにて開催。軽食（サンドイッチ、お寿司等）を提供。アルコールは提供しない。食事等は地区会で準備し、司会・運営は小教区評議会が担当。

7. ご復活のお祝い（3月31日）

- ・3月31日（日曜日）10時ミサ後に行う。担当は婦人会。
- ・新年会と同程度の人数分を対象とし、同様の飲食（軽食、ケーキ、ビール等）の提供を行う。
- ・司会進行は、小教区評議会にて決定する（ゲーム等の実施も検討）

8. 役員交替確認（別紙省略）

9. その他

- ・今年も納涼の夕べに代り、原則昨年実施の地区交流会を行うものとする。
- ・地区交流会は6月末～7月上旬に開催予定。教会学校の子供たちと中高生たちとの関りも検討する。

次回地区役員会 4月21日(日) 11:30～

≪ 灰の水曜日 ≫2月14日

復活祭 46 日前の水曜日は「灰の水曜日」。信徒の皆さんは回心のしるしとして、額に灰を受け、この日から四旬節が始まりました。四旬節は「40 日の期間」という意味で、イエス様が荒れ野で 40 日間断食をしたことに由来しています。四旬節はまた、復活祭に洗礼を受ける志願者の皆さんにとって、直前の準備期間と考えられていますが、すでに洗礼を受けた信者さんたちもこの期間、節制と回心につとめることとされています。灰の水曜日は大斎・小斎の日にあたりますので、食事を控えた方も多かったことでしょう。

大斎は 18 歳以上 60 歳未満、小斎は 14 歳以上の健康な信者の皆さんが守るとされています。（参考：カトリック中央協議会 HP）



≪ 講演会・細川ガラシャとその時代 ≫2月17日（宣教・養成部主催）



2月17日（土）午後2時より、宣教・養成部主催の講演会「細川ガラシャとその時代」が行われました。

講師はレンゾ・デ・ルカ神父（イエズス会前日本管区長、日本二十六聖人記念館館長）。教会 SNS でこの講演会の開催を知ったという、六甲教会共同体以外からも、熱心な聴講者が参加されました。中には遠く山形から参加した人も。

細川ガラシャは、明智光秀の娘・たまこ（別名：玉子、珠子）で、細川忠興の正室。その たまこ がどのようにして洗礼を受け、キリスト者になったのでしょうか。当日配布された資料『イエズス会日本年報 下（新異国叢書）』や豊富なスライド資料では、たまこの類まれな知性と理解力に驚いたパードレ（神父）でしたが、当時、伴天連追放の嵐の中でもあり、彼女の身分が高いため簡単に外出することも適わず、神父の手を通して洗礼を受けることはできなかったといえます。結局、すでに洗礼を受けていた婦人マリア（内藤ジュリアという説の資料もある）の手を通して受洗したとされています。ガラシア夫人については海外の複数の資料に“丹後の女王ドナ・ガラシャ（Gracia）”の記載が見られます。自害が禁じられているキリスト教ですが、たまこは自害したのではなく、自らの首の位置を示しただけで、あとは家来の手により介錯を受けて…という壮絶な最後であったことが記されています。レンゾ神父は、ガラシア夫人の有名な辞世の句を紹介し、講演を締め括られました。

『散りぬべき 時知りてこそ 世の中の 花も花なれ 人も人なれ』

≪ 洗礼志願式 ≫2月18日

四旬節第一主日の2月18日、10時ミサ中に洗礼志願式が行われました（写真）。この日は成人 11 名が臨み、洗礼準備期に入りました。このあと、3月30日（土）復活徹夜祭と翌 31 日（日）に行われる洗礼式で入信の秘跡に与ります。今年は、こどもたちの該当者はありません。



写真前列は洗礼志願者の 11 人。後列は代父、代母のみなさん。

神学生フオンさんの六甲ダイアリーより（6）（最終回） ありがとう

沈黙の実 は 祈り・祈りの実 は 信仰・信仰の実 は 愛・愛の実 は 奉仕・奉仕の実 は 平和
(マザーテレサ)

教会報3月号に書く時、どのようなテーマで書けばいいのか分からず、まごまごしていました。一方で、私はベトナムのカトリック文化について伝え続けたいと思っています。カトリックの信仰と召命はどこで育まれ、発展していくのか。他方では、これが最後の記事になるので、六甲教会で過ごした日々の思いを語らずにはいられません。そこで、六甲教会の皆様に、喜び、親しみ、感謝という三つの気持ちを表す気持ちをお伝えしたいと思います。

最初の感情は喜びです。私は2023年7月から現在まで、まるまる8か月近く六甲教会に派遣されました。教会での8か月間、神学生として私が感じた特別な喜びは、教会の皆さんの神聖な雰囲気と熱心さにほかなりませんでした。教会の早朝のミサにもたくさんの人が参加していて、とても驚きました。早朝のミサでは椅子が足りない日もあります。これはとても貴重で、私が知っている教会では珍しいことです。六甲教会は大きな教会ではありますが、人数の多いすべての教会でこのような朝のミサが行われているわけではありません。さらに、早朝から夜まで聖母マリア像の前やご聖堂の十字架の前で密かに祈りを捧げるために、また聖体を拝みに来る信者さんたちもいます。たとえ人生が厳しく、仕事が忙しくても、彼らは神様のために時間を作ります。それらの場面を見ると、言葉では言い表せない喜びを感じます。内なる喜びはすべての人の神聖さから広がります。無視できないもう一つの喜びは、教会での奉仕に対する熱心な人たちを見ることです。私が尊敬する奉仕の最初の例は、主任司祭と助任司祭です。夜まで彼らは休みなく働きます。次の模範は、みんなのために頑張っている教会の信者さんたちです。謙虚に心を込めて奉仕する、熱心な人々。名前は言いませんが、この奉仕への熱心さは、一人ひとりの神様と教会への愛から来ていると私は信じています。それは大きな恵みです。

2番目の感情は親密さです。教会ではたくさんの配慮とサポートを受けました。教会にはベトナム人の若者が少ないので、多くの信者さんは私が寂しがると心配しています。信者さんたちは、私と一緒に遊ぶ友達も、打ち明けられる同胞もいないことを心配してくれました。私が以前奉仕していた小教会では、誰もが親しみやすく謙虚な教師であると感じました。そういう場所にいたおかげで、私は人生、仕事、文化について熱心に指導されました。六甲教会にいる間、日本語、カテキズム、毎日のミサ朗読の練習を手伝ってくれた先生に加えて、さらには教会の友達もできました。まあ、かれらは家族のようなものです。聖パウロの言葉を借りて、「私は共同体と同じ信仰のもとで新しい人に生まれ変わった」というこの思いを伝えたいです。具体的には、教会での挨拶、会話中の励ましの言葉、または単に皆さんの顔に浮かぶ明るい笑顔が親密さを生み出し、教会での私の毎日の生活を大いに助けてくれました。これにより、自分が教会に属していると感じることができ、もはや合わない場所であるとは感じなくなりました。その代わりに、それは新しい家族の雰囲気であり、誰もがここに來たがり、和解と慰めとお互いの励ましを望んでいます。それは大きな恵みです。

「私がどんな人間であっても、私は神様の恵みのおかげで今日あるのです。」(1コリント15:10)。感謝が私の最後の感情です。修道会には、時々メールで私のことを尋ねてくる神父たちがたくさんいます。彼らはよく私に、私が教会で何をしているのかと尋ねます。その時はどう答えていいかわからず、かなり困惑してしまいました。会社の社員であれば、各自が部署を担当し、その仕事にフルタイムで専念することになります。しかし、私は神学生として教会での修練と仕事に慣らされました。したがって、小さなタスクを引き受けるだけです。たとえば、教会内の友人たちとキャンプに行ったり、平日のミサで朗読を担当したり。週末や葬儀の際に祭壇で奉仕し、聖体授与を行う。炊き出しグループと一緒に料理を作りに行き、教会学校、中高生会、青年会の活動に参加します。教会SNSグループメンバーでもあります。地区会グループが教会を掃除するのも手伝っています。あるいは、園



芸グループと一緒に花壇を作ったり…そんな簡単な作業を通して、司祭をはじめ皆さんからたくさんのお心を集めました。私は司祭から貴重な司牧経験を学び、皆さんから謙虚に奉仕する方法を学びました。本当に、感謝しかありません。神様と皆さんのすべてに感謝します。

六甲教会の屋根の下で 8 か月が経ちました。8 か月は教会使徒職を実践するには短すぎる時間ではありませんが、教会内の人々に会い、知り、聖なる模範に倣うには十分な時間です。このような貴重な経験を教えてくれる学校はありません。でも神様の恵み、祈りを与えてくれた「六甲教会・信仰の学校」のおかげであると改めて感謝しています。

Peter Hoang Cong Phuong, S. J.

////////////////////////////////////

●●●みんなの広場●●●

小学校の「特別支援学級」に携わって

蛭田 武



1対1での個人学習

最近、発達障害の子供が増えています。2020年の文科省の調査では、公立小中学校の児童生徒の8.8%が「発達障害」の可能性があると明らかになりました。私も週1回、近くの小学校の「特別支援学級」のボランティア教師に携わっていますが、ここでも3クラス15名の学童がいます。私に関わってから既に3年半が経ちました。

ある日の私の日誌には、次のようなことが書かれていました。「今日の小学校の特別支援学級は、2年、5年、6年の担当だったが、学科は国語、算数、音楽、保健と多岐にわたった。その都度新たな発見をする。2年生の学童には、いかに目標に到達させるかを一緒に問題を解きながら導いていくのが私の役割で、その子の性格

を把握し忍耐力を持って学習の楽しさを教える。また音楽の授業は一般学童と一緒にだったが、一つの曲の中にあるいろいろな音や旋律を聴きながら自分の感じたことを想像させるもので、彼らの感性には驚いた。6年生の保健授業では「飲酒の体への影響」がテーマで、未成年の飲酒の怖さを教えていた。とにかく学童と一緒に勉強していると、学ぶことが多い。」

以上の他、一般学童に交わっての図工、体育、英語と、私自身が元気でないとやれない仕事ですが、子供たちはみんな可愛く、同じ目線で接すると懐いてくれます。

発達障害には、①自閉的スペクトラム症、②注意欠如・多動症、③限局性学習症（学習障害）といういろいろありますが、その子の性質をよく観察しながら接することが大事だと思っています。つまり、彼らは3匹のタイ（・褒められタイ ・認められタイ ・愛されタイ）

を望んでいるのです。彼らの突出したところを伸ばすことで本人の自己肯定感を生むことができるのです。そして、大人になっても例えば文化芸術の世界で活躍されている方もたくさんおられます。有名な俳優のトム・クルーズや映画監督のスピルバーグなども、読み書きが不得手なディスレクシア学習障害でしたが、立派な仕事をされています。

私は今接している子供たちが、これからも社会の中で普通に生活できるように、微力ながら手助けをしてあげたいと、日々励んでいるところです。それにしても彼らに関わる先生がいかに不足しているか、これが大きな問題ではないでしょうか……。



特殊学級での料理の授業



「わたしは植え、アポロは水を注いだ。
しかし、成長させてくださったのは神です。」

(1 コリント信徒への手紙 3；6)

子どもがなかなか思うようにならなかったり、心配したり、親としての関わりのまずさに落胆したり、反省する日々。子育てに悩み、行き詰まる度に支えになっているみことばです。

人は植物の種や苗を植えて水をやったり肥料をやったりはできるけれど、思うような時に芽を出させたり花を開かせることはできない。命を与え、成長させるのは神様であり、神様はその子その子に目的や計画を持っておられてふさわしい「時」に芽を出させ、花を咲かせられるのだ。

大切なのは親としてできるせいっぱいのことをして、子どもを神様にゆだねること、神様の「時」を待つこと、そして何よりも祈ることだと教えられています。

《社会活動部の炊き出しに参加して》

今まですることができなかった経験の 1 つ、炊き出し活動に初めて参加させて頂きました。様々な場面で色々な印象を受けることができました。

まず、今まで行列している方に対してマイナスな自己判断をしてしまっていました。近寄りにくい、少し怖いからなどと心に壁を作っていました。しかし実際関わってみると、とてもフレンドリーな方が多く、気軽に会話をすることができました。皆さんが配布直前に並んでいらっしゃった時、消毒やお土産を持ちやすいように配ることで困っている方への配慮、思いやりを感じることができました。初対面のボランティアスタッフの方々も笑顔で接してくれ、分かりやすく説明してくださり温かい雰囲気の中でお手伝いすることができました。

今回はハヤシライスを作りましたが私の想定外の量の多さに驚きました。ボリュームたっぷり栄養満点な食事を提供することができ、役に立てたことに喜びを感じました。

そして、食事を頂いた時、とても美味しかったです。大量の野菜を切ったり、大きなお鍋で作ったりは大変でしたが、温かいご飯で、心も体も温まったのではないかと実感しております。また、炊き出しの場所自体も、困っている人々に対する支援の拠点として機能していることを感じました。人々が集まり、助け合いの輪が広がっている様子が印象的でした。ボランティアスタッフの方々が、笑顔で対応しているだけでなく、親身に関わってお話をしていく姿は素晴らしかったです。

炊き出し活動に初めて参加させていただいた経験は、私の日々の幸せや感謝の気持ちを再確認する良い機会となりました。また、困っている人々への支援や助け合いの大切さを改めて感じる事ができました。これからも、自分のできる範囲で支援活動に参加したり、助けが必要な人々の手助けをしていきたいと思っています。

貴重な経験をさせて頂き本当にありがとうございました。(川畑 亜弥音)



3月の催し

祈りと音楽の集い～四旬節によせて～



日時：3月10日（日）開演：14時（開場：13時半）
 場所：六甲カトリック教会主聖堂
 出演：オルガン 松井公子（六甲カトリック教会オルガン/独唱奉仕者）
 ソプラノ 西川 葉（六甲カトリック教会独唱奉仕者）
 プログラム：
 高田三郎 母は立つ
 J.S.バッハ《マタイ受難曲 BWV244》より
 コラール前奏曲「おお人よ、汝の大いなる罪を嘆け」BWV622
 前奏曲とフーガ ハ短調 BWV546 ほか



《 図書室からのお知らせ 》

2024年2月に入った図書

次の7冊の本はオンデマンド出版（注文に応じて印刷・製本した本）です。オススメいたします。

☆ 深みとのめぐりあい 高森草庵の誕生 押田成人著作選集Ⅰ

押田成人（著）／宮本久雄・石井千恵美（編） 日本キリスト教団出版局

☆ 日本とイエスの顔 井上洋治著作選集Ⅰ

井上洋治（著）山根道公（編）・山本芳久（解説） 日本キリスト教団出版局

☆ 水野源三精選詩集 わが恵み汝に足れり

水野源三（詩）・森下辰衛（選） 日本キリスト教団出版局

☆ 働くこと愛することー創造の神学

D.ゼレ（著）・関 正勝（訳） 日本キリスト教団出版局

☆ 女性たちとイエス 相互行為的視点からマルコ福音書を読み直す

絹川久子（著） 日本キリスト教団出版局

☆ キリスト教教父著作集1 ユスティノス

柴田有三/小田敏雄（訳） 教文館

☆ キリスト教教父著作集8 オリゲネス3

出村みや子（訳） 教文館

※ 図書の配置を変更しつつあります。（入口すぐ左のところに「新しく入った本」を展示・・・など）
 また見出し板も新しくし、分類を少し変えています。使いやすいようにと工夫していますが、皆様がご利用する上でお気付きのことやご希望などがありましたら、図書室入口横にある投書箱にてお知らせください。

【今月の社会活動部の予定】

3月6日（水） 10:00 手芸の集い 第1、第2 会議室
 3月9日（土） 10:30 炊き出し 小野浜グラウンド
 （神戸市小野浜町3）
 3月15日（金） 9:30 ともしび会 教会台所
 （児童養護施設の子もたちへの
 ケーキ作り）
 （写真は2月のともしび会のケーキ）



【活動センターから協力依頼】

野宿者、生活困窮者の半袖、長袖のTシャツ（紳士物）が不足して困っています。ご家庭で眠っているものがありましたら、聖堂入口の段ボールに3月10日～31日までに投入してください。比較的新しいもの、もしくは、洗濯してきれいなものに限ります。（社会活動部）

【2024 年 3 月行事予定表】

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
					初金曜日ミサ 7:00 10:00 聖体顕示 10:00 ミサ後	◎教会学校
3	4	5	6	7	8	9
四旬節第 3 主日 手話付きミサ 10:00 歓送迎会 10:00 ミサ後 小教区評議会 歓送迎会終了後			三日月会 遠足		十字架の道行 10:00	社会活動部 炊き出し 教会学校卒業 式・終業式、 卒業合宿（～ 14 日）
10	11	12	13	14	15	16
四旬節第 4 主日 春の墓参 祈りと音楽の集い 14:00					十字架の道行 10:00 ◎東灘南	
17	18	19	20	21	22	23
四旬節第 5 主日 子どもとともに 捧げるミサ 10:00 ◎日曜班	三日月会 例会	聖ヨセフ			十字架の道行 10:00	教会学校 2 年 生 1 日練成会
24	25	26	27	28	29	30
受難の主日 (枝の主日)	◎定期清掃			主の晩餐の タベのミサ 19:00	主の受難の祭儀 19:00	復活徹夜祭 19:00
31	聖なる過ぎ越しの三日間（3 月 28 日～30 日）は教会典礼上の頂点であり、私たちの信仰生活と主の救いの業を表す最も大切な祭儀です。私たちの救いのために十字架にかけられたキリストの死と復活を思い、できるだけ祭儀に参加しましょう。 なお、この三日間の朝 7 時のミサはありません。（典礼部「聖週間の典礼」より）					
復活の主日 ご復活お祝い会 10:00 ミサ後						

◎は掃除当番地区です。（午前 7 時時点で気象警報が発令された場合は中止します）

【短信】 次回「福音朗読とお説教」の教会 HP での配信は、3 月 3 日と同 31 日の 2 回を予定しています。

・次回 4 月号の発行は 3 月 30 日（土）です。 原稿は毎月 15 日ごろまでに、教会受付へ直接 ご持参いただくか、FAX、メールでお願い致しま す。（renraku@rokko-catholic.jp） 皆さまからのご寄稿をお待ちしています。 <u>教会 SNS チームは、フェイスブック、インスタグラ ム、X（旧ツイッター）、YouTube チャンネルで配 信しています。「六甲カトリック教会」で検索してみ てください。</u>	六甲カトリック教会 〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21 電話 078-851-2846 FAX 078-851-9023 http://www.rokko-catholic.jp 発行責任者 英 隆一朗 編 集 広 報 部
---	--